

## 第2回 桐生市総合計画審議会 議事要旨

○日 時 令和5年7月26日(水) 午後6時30分～午後9時5分

○場 所 桐生市保健福祉会館 5階 503会議室(控室:501、502会議室)

○出席者 44名

### 【審議会】 16名

会 長: 桐生市教育委員会 教育長職務代理者 板橋 英之

副会長: 一般社団法人きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長 近藤 圭子

委 員: 桐生商工会議所 会頭 初山 和久

桐生市農業委員会 会長 今泉 芳雄

桐生市社会福祉協議会 常務理事 大木 茂雄

桐生市子ども・子育て会議 委員 谷口 淳美

桐生市医師会 理事 星野 仁

一般社団法人桐生青年会議所 直前理事長 深澤 佑太

桐生市婦人団体連絡協議会 体育振興部担当 間中 一枝

群馬大学 大学院理工学府 教授 天谷 賢児

群馬大学 大学院理工学府 教授 金井 昌信

黒保根の未来を語る会 副会長 木村 光一

公募市民 清水 哲

公募市民 山口 典利

公募市民 茂木 和子

公募市民 園田 奈緒

(欠席者)

委 員: 桐生市区長連絡協議会 会長 茂木 新司

新里の未来を語る会 会長 瀬谷 源

群馬県知事戦略部デジタルトランスフォーメーション戦略課 課長 間々田 祐美子

### 【桐生市】 28名

<事務局> 桐生市共創企画部長 西條 敦史

桐生市共創企画部企画課長 橋本 頼孝

桐生市共創企画部企画課企画担当係長 森下 英明

桐生市共創企画部企画課企画担当 曾我 延博

<担当部課長>

桐生市総務部長 青木 紀夫

桐生市総務部納税課長 中島 忍

桐生市市民生活部長 関口 泰

桐生市市民生活部スポーツ・文化振興課長 山田 和彦

桐生市保健福祉部長 助川 直樹

桐生市保健福祉部健康長寿課長 高草木 睦

桐生市保健福祉部主幹 大竹 美佐子

桐生市保健福祉部福祉課長 小山 貴之

桐生市保健福祉部医療保険課長	小澤 徹行
桐生市保健福祉部地域医療感染症対策室長	藤本 幸太郎
桐生市子どもすこやか部長	須藤 恵理子
桐生市子どもすこやか部子育て支援課長	須藤 まりこ
桐生市子どもすこやか部子育て相談課長	関沼 八千代
桐生市子どもすこやか部青少年課長	星野 正史
桐生市産業経済部商工振興課長	石原 智貴
桐生市産業経済部観光交流課長	今泉 一美
桐生市産業経済部日本遺産活用室長	中島 晃
桐生市産業経済部農林振興課長	今泉 勝浩
桐生市教育委員会事務局教育部参事	飯泉 尚士
桐生市教育委員会事務局教育部総務課長	園田 博宣
桐生市教育委員会事務局教育部学校教育課長	渡邊 真宏
桐生市教育委員会事務局教育部生涯学習課長	河合 恵子
桐生市教育委員会事務局教育部文化財保護課長	向田 澄枝
桐生市教育委員会事務局教育部図書館長	助川 登志子

※担当課によっては、係長・担当の出席もあり。

【傍聴者】なし

【報道機関】2社

○会議内容

1 開 会 [ 開始：午後6時30分 ]

2 会長挨拶

・板橋会長より挨拶。

3 議 題

・議事に入る前に、事務局より、過半数以上の委員の出席により会議が成立していることを報告。

・議事進行は、桐生市総合計画審議会規則第4条の規定により、会長が議長として行う。

(1) 桐生市第六次総合計画 前期基本計画の評価について (資料1)

・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	<p>26 ページに総合指標と個別指標で評価が乖離しているところがいくつかあって、評価シートについて修正しているものがあるとの説明があったが、修正はどのような方法で行ったのか。高く達成しているものと低く達成しているものがあった場合、どちらに合わせるような修正を行ったのか。本来低いものだからもう片方は低くあるべきであれば、高く出ている方がおかしい指標であって、もっと厳しくするというのが真摯な姿勢だと個人的には思う。逆に、片方が高く、もう片方が低いのであれば、低い方を甘い基準に変えて高くする方向性もある気がする。担当課に指標の修正を依頼した際にどのような方向性を示したのか教えていただきたい。</p>
----	---

事務局 (企画戦略担当係長)	修正の仕方はいくつかあるが、前期基本計画で設定した指標に関連性が少し薄いところについて、指標の見直しを図ったのが主なものである。
委員	<p>数値だけを見ているのではなく、指標の中身だけで修正を行ったということで理解する。</p> <p>また、前回の審議会から気になっていたのだが、目標指標に市民の声アンケートの結果を使っているが、例えば「子育て支援に関する評価はどうか。」という質問を子どもがいない人に聞いても何でもいいとなるし、それと同じで介護・福祉施策について若い人に聞いても何でもいいと思う。おそらくランダムサンプリングで市民アンケートをとっていると思うが、目標指標の中で使う該当者・非該当者で確実に感覚が違うものについてどう扱っているのかを教えてください。</p>
事務局 (共創企画部長)	<p>目標指標の中でアンケート調査を設けたのは、市民の幸福度という考え方があり、満足度を1つの指標とする考えのもとで、前期基本計画を策定している。そのアンケートの方法としては、それぞれの項目で別々に行うのではなく、2年に1回行っている市民の声アンケートに項目を盛り込むという考えの中で大きく進んでいる。委員からの指摘については、もっともだと思う。回答があったものを母数にしてどういう回答であったのかを調べるとそういう結果が出てしまうというのも確かにあり得ることである。今回については、特段、修正していない。指摘のあった該当者・非該当者の捉え方については、次期の総合計画を策定する過程で、もう一度考えていかなければいけないと考える。</p>
委員	<p>アンケートについては、次期の総合計画策定時でよいのだが、それぞれの項目に該当する人という縛りで集計していただいた方がよいと思う。パーセントを出す時は、市民の声アンケートの回答者全数でパーセントを算出するのではなく、例えば、市民の声アンケートの中の子育て世代と思われる20代から30代で集計した結果などとした方がよいのではないかと思います。次回は、ぜひ検討していただきたい。</p>
会長	<p>アンケートの取り方は非常に重要だと思う。質の高い集計結果が出るようなやり方を考えていただきたい。</p>
事務局 (共創企画部長)	<p>アンケート調査の設問の目標値については、調査の都度向上ということで、分母の数が変わればパーセンテージが上がるなど不透明なところもある。本日の指摘を受け、そういった点も考えなければいけないと思う。ただ、今回に限っては、第六次総合計画の前期基本計画と後期基本計画を合わせた8年を1つのスパンと考えているので、ご理解いただきたい。</p>

(2) 若者からの意見聴取結果について (資料2)

会長	若者の意見は重要である。高校生については、どのように選んで意見を聞いたのか。
事務局 (企画戦略担当係長)	今回初めての試みということで、桐生商業高校と桐生高校の2校を選んだ。選ばれた生徒については、学校側に選んでもらった。商業高校については、生徒会の役員である生徒を選んでもらった。桐生高校については、学校の「探求」という授業の中で桐生のことを研究しているグループの中から選んでいただいた。
会長	若者の意見ということで、群馬大学工学部に在籍している大学生はどうか。桐生市外から通っている大学生の意見も重要だと思う。
事務局 (企画戦略担当係長)	今回のように、若者の意見を聞くことは、重要なことであると考えているので、機会を見つける中で、大学生の意見も聴取していきたいと考えている。
事務局 (共創企画部長)	若者ワークショップでは、19歳から33歳までの若者に参加いただき、開催した。このワークショップには、現役の大学生にも参加してもらっている。若者の意見をどこまで聴取するのかを考えた時に、高校生世代の意見が無かったため、今回高校生から意見を聴取した経緯がある。 今後の在り方については、検討してまいりたいと考えている。
委員	大学生からの意見を聴取するのであれば、希望者の参加型で開催すると、意識の高い人の意見しか聴取できないので、大学の授業等で実施した方が良いと考える。私の授業で良ければ、グループワークを行う授業もある。 ただし、このようなグループワークを実施する時は、ファシリテートが重要になってくる。

(3) 桐生市第六次総合計画 後期基本計画 (案) (第1～3章) について (資料3)

- ・桐生市第六次総合計画基本計画の策定に向けた桐生市総合計画審議会委員からの意見(資料4)については、当日配付。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

【第1章 産業経済の振興】

- ・事務局が第1章(1-1～1-6)を説明し、それぞれの分野別施策ごとにご意見等を伺う。

1-1 地域産業の活性化(13～14ページ)	
委員	資料3の全体に係る部分であるが、赤字部分が見えづらい。もっと赤字部分の色を濃くしてもらいたい。
会長	次回の資料については、もっと濃くしてもらいたい。

委員	第1章の全てに係る部分であるが、基準値と目標値があって、例えば14ページの製造業の事業者数は基準値が332で、目標値も毎年度332で同じである。これは増減を両方勘案した数字なのか。減少することは考えていないのか。
商工振興課長	手をこまねいていると減っていく可能性が高いので、様々な支援を行いながら現実目標として増やしていけるかというところであり、なんとか現状維持で留めておきたい。両方を足してバランスをとって目標値に設定している。
委員	桐生では廃業が増えている中で目標値としてはあまり現実性がない。市の立場からすると減らした目標値を書きづらいのは分かるが、実際に桐生市の人口が減っており、企業者数が減っていく中で、目標値を達成するためにどういった努力をしているのかという話になってくる。今日の会議ではそこまで出てこないと思うが、例えばここに重点課題が出てきて、こういう重点課題をやるから目標値を維持できますよ、ということなら分かる。第六次総合計画を策定した時から変わっていないのでは見直しを行う意味がないと思う。もう少し、シビアに設定してもよいのではないかな。
商工振興課長	現実的な話として市の計画として減らすというのは、中々難しいところがある。実際に企業誘致をしたり、起業促進をしたり、他の地域から誘致したりしてなんとか増やす分も確保しながら、現状維持を現実的な目標としている。
会長	前期基本計画の時は、どうだったのか。
商工振興課長	前期基本計画では、多少増やすような計画になっており、基準年度は358件、その後は370件を4年間維持としている。基準値をなんとか現状維持していくことで頑張っていきたいと考えていた。
委員	18ページでは、空き店舗の関係で、市でかなり力をいれて開業に関して補助金を出している。基準値が11で翌年の目標値は12で変化がない。補助金を投資しているにも関わらず、変化が出てこないということは、第六次総合計画の最終的な見直しをしたときに、失敗だったという話になる。この辺は、なるべく数字を上げていくようにするなど、もう少し中身を精査した方がよい。
委員	2022年度が基準値となっているが、最初の総合計画が始まった2018年からどういった推移をしているかが分からないと目標値の設定をしてもよく分からない。前後4年間の数値が見えないと目標値があっても分からない。
商工振興課長	必ずしも右肩下がりで減り続けているわけではなく、2020年度に326件だったものが、2022年度には332件で6件増えている。逆に右肩上がりです。

	<p>っていくのも現実的ではないので、今回上がった数字を減らさず、維持していきたいということで、目標指標に設定している。</p>
会長	<p>目標値を減らさないのが一番の目標であるのは分かるが、統計的な推移がこうなっているのでこれを目標にするというのがあれば、説得力があると思う。</p>
商工振興課長	<p>実際どれくらい減り続けるかというのは何とも言えないところである。2020年度から2022年度には上がっている状況もあり、上がったたり下がったりがその時々であるので、そういったことを踏まえて現状維持を目標値として設定していることに理解をいただきたい。</p>
委員	<p>単純に目標値を入れるのではなくて、そういったことも踏まえて目標値を設定していることが分かればよい。</p>
<p>1-2 企業立地の推進（15～16ページ）</p>	
委員	<p>武井西工業団地が、やっと売れたという状況にある。武井西工業団地を上回った広さを買って工業団地を造るということで企業立地を増やしていくことのように、これに対して雇用創出という意味では素晴らしいが、工業団地が売れるのかという心配もある。</p>
商工振興課長	<p>武井西工業団地については、非常に引き合いも多く、分譲開始から約4年で完売となった。残りわずかとなった時から、多くの引き合いがあり、工業団地に入りたいという要望が未だにある。工業団地の在庫がない中で、群馬県とやり取りして候補地選定を進めており、具体的などころまでできている。ただ、実現するには5年程度かかる。このため、5年後の2027年度には分譲開始できるように取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>桐生信用金庫が、太田市に本部を移してしまうという問題だとか、桐生大学の一部が太田の駅前に移ると聞いているが、何か防止策はないのか。</p>
商工振興課長	<p>どこまで防止できるのかということもあるが、地元の魅力ある企業の多くが桐生信用金庫の取引先になれば、桐生に定着すると思う。桐生信用金庫からは「太田に移すが、桐生に軸足を置いて展開していく」という話も聞いている。魅力ある街にしていくことを計画の中で進めていきたい。</p>
会長	<p>目標指標である「分譲可能な工業団地数」で「0」が並んでいるのに違和感を覚えるが、これは団地数でなければいけないのか。団地数以外で何か目標指標を設定することはできないか。</p>

商工振興課長	まずは、新規工業団地数を5年後に実現するというので、1つ大きな目標設定をした。工業団地の中には、数社入るスペースができるので、そこでまた従業員の雇用が多く発生する。新規工業団地が1件できることによって波及効果が大きいのと考えているので、まずは1件を実現することに注力していきたい。
会長	「0」ではなく「-」（横棒）がよいのではないか。
商工振興課長	「0」か「-」（横棒）かは、検討させていただきたい。
委員	新規工業団地数で2027年度に「1」とあるのは、2027年度には1つできるということか。
商工振興課長	あくまで目標である。全地権者から合意を得られなければこの計画は進まない。このため、慎重に進めているところであり、現状において、できる・できないとは言えない状況であるので理解いただきたい。
委員	桐生に工業団地がないのは非常にさびしいと思う。太田市、伊勢崎市、みどり市は、工業団地を造っている。桐生も早く造った方がよいと思っているので、ここに数値が早く入るようにお願いしたい。
1-3 商業の活性化とにぎわいづくり	
委員	中心市街地の活性化については、お金をつぎ込んでも、なかなか活性化してこない。若い人たちが帰ってきてポツポツとお店を作っていただいているが、援助がないと成り立たないと思う。今は、家賃が0円だからなんとかやっているのもあるが、そういう面ではある程度、中心市街地はこういう形にしていくというビジョンを掲げないといけないと思う。中心市街地の活性化は、ただお金を出せばいいものではないと思う。
商工振興課長	ビジョンの問題については、以前から桐生商工会議所ともやり取りをさせていただいているが、中心市街地の中でも各商店街組合もあるし、その中でも各商店の方々の思いはそれぞれまちまちである。中心市街地の意見を取りまとめていただくということを、商工会議所が中心となって今まで進めてきた経緯もある。市と商工会議所が連携を図りながら、ビジョンができるかということも含めて、具体的なことは今後進めていきたい。
委員	この計画は4年前に立ち上げて、6つの施策の方向性でやっているが、この4年間で異常気象があったり、DXが進んだり、色々なことがあってすごく変わった。4年前のジャンル分けですとってきていて、ちょっと変えようという話のように聞こえる。例えば、工業団地を造るのに、土地がないのであれば違う

	形態の産業を考える。また、DXが進んでいるので小さな空き店舗でも新しいことができるビジョンみたいなものを示すと、今まで考えられなかった新しいビジネスを桐生にもってこることができると思う。そういうことが、この計画では見えてこない。桐生はこういう街になるというものを総合計画に入れるべきだと思う。
会長	例えば、目標指標のところにそういうものを新たに加えてもよいのかもしれない。
副会長	18 ページの目標指標である空き店舗補助金については、新しく 2 つに分けているが、前回までは延べ数で出ていたものが、今回からは単年度という理解でよろしいか。
商工振興課長	単年度ごとに 2 つの施策をわけて分かりやすく記載した。
副会長	延べという言葉が色々なところに出てくるが、単年度と累計になっているところがいくつかあると思うので、分かりやすく表記していただきたい。
事務局 (企画戦略担当係長)	延べの使い方は、例えば同じ人が 2 回参加しても、延べでは「2」になるということで、今までは累積について延べと表現していた。今回、その表現の仕方は違うのではないかと考え、削除させていただいた。例えば 14 ページの製造業の事業者数において、2022 年度の数値は 3 月 31 日現在の事業所数が 332 を目標とするような数値の性質である。また、18 ページの空き店舗の補助については、年間で何件補助するかという数値になる。 委員からの指摘のとおり、指標の数値が累積であったり、年間で何件であったりと性質が違うものが混在しているので、見て分かるように工夫しなければならないと考えている。次回、後半（第 4~6 章）の部分を審議いただく際には、そこがはっきり分かるように表示の仕方について工夫させていただきたい。
会長	表記の方法について、検討してもらいたい。
1-4 雇用・労働環境充実	
委員	雇用・労働環境の充実にある目標指標である有効求人倍率は分かりやすいのでよく使われるが、現況と課題に書かれている「人手不足感が顕在化している」ということは人手不足であり、有効求人倍率がずっと高くなってしまふ。好景気で人が欲しいのではなく、単純に人がいないから欲しいけどつかまらないということになる。これが高い状態を維持しているのは、よくない状態が続いているととられるのではないか。それよりも、求人を出し続けているけど採用者が見つからないという件数がどんどん減っていくみたいな指標が調べ



	られるならば、そっちの指標の方が有効ではないか。人が集まらず、ずっと募集し続けている企業・業種がある中で、そういったものが減っていく目標の方がよいのではないかと思う。
会長	有効求人倍率の目標指標を削除するのではなく、新たに目標指標を追加したらどうかということか。
委員	そのとおりである。
会長	そういった指標があれば、ぜひ追加していただくなど、検討いただければと思う。
1-5 農林業の活性化	
委員	22 ページの目標指標に「桐生産木材の出荷量」とあるが、桐生木材ヤードへの出荷量ということではないのか。
農林振興課長	最初は、桐生木材ヤードの出荷量ということで、記載していたところであるが、桐生の山で切り出した木材が、全て桐生木材ヤードに来ることではない。このため、桐生産木材の出荷量ということで、訂正させていただいた。
委員	桐生産木材の出荷量は、桐生市とみどり市を併せて按分した出荷量なのか。
農林振興課長	計画に記載している基準値・目標値については、群馬県環境森林部で算出した木材需給の現況であり、桐生市とみどり市のそれぞれの集計となっている。
委員	山林については、相続の問題があり、山に興味のない若い人たちが持ち主になってくる場合もある。そういう場合には、山が荒れてくる可能性もある。そういうことにならないように、若い人たちにも、山の事を分かってもらえるような、山主への補助制度も重要なことだと考えている。

## 【第2章 福祉・健康の増進】

- ・事務局が第2章（2-1～2-7）を説明し、第2章をまとめてご意見等を伺う。

委員	26 ページの目標指標である合計特殊出生率を削除しているが、最も大事な数字であると思う。市として、目指すべき方向だと考えている。
子育て支援課長	合計特殊出生率については、若い世代にとって、仕事や生活などの問題も関係してくるため、子ども・子育ての章だけではカバーしきれない問題であると考え、子ども・子育て支援の充実の分野別施策からは、目標指標を削除した。

会長	後期基本計画の他のところに合計特殊出生率を記載しているのか。
子育て支援課長	他のところには入れていない。
事務局 (企画課長)	合計特殊出生率については、一つの分野だけで対応することが難しい状況である。例えば、今後総合戦略の中に記載するなど、検討させていただきたい。
委員	合計特殊出生率は、上位計画である総合計画の中に入れるべきだと思う。将来を担う子どもの根幹をなすものであり、力を入れていくポイントになるものだと思うが、それを削除してしまうのはどうかと思う。
委員	先ほどの委員の意見については、私も賛成である。出生率が減っているのは分かるが、最低限でも現状維持の目標を立てていただければと思う。また、目標指標である「子ども・子育ての充実」についてのアンケートは、どのようにするのか。
事務局 (企画課長)	市民の声アンケートにより無作為に抽出し、郵送し返送いただく形となっている。
委員	日々忙しい母親が郵送で回答するのは難しいと思うので、例えば、キノピーランドや子育て支援センターで直接、口頭で確認するなど、可能であればアンケート方法を考えていただきたい。
事務局 (企画課長)	市民の声アンケートをベースにこれまで実施してきているので、継続性もあるため、いきなり切り替えるということも難しいかもしれないが、研究させていただきたい。
委員	合計特殊出生率と出生数は重要な指標であるため、削除してしまうのはどうかと思う。
事務局 (共創企画部長)	合計特殊出生率は、子ども・子育て支援の充実を行うことによって、必ずしも改善されるものではないといったことがあり、ここの項目から削除した。合計特殊出生率をどこに位置付けるかについては、現在検討中であり、最低でも総合戦略に位置付ける。総合戦略とは、人口減少に特化した計画であるため、その中に位置付けなければと思う。総合計画の分野別施策の一つという小さい項目で位置付けるようなことではないという考え方もあるため、全体の一番上に抜き出して掲げるなど、やり方については研究させていただきたい。どのように掲げるのかは、市の中で議論し、次回までに提示させていただきたい。
委員	27 ページの子ども・子育て支援の充実について、首都圏とは違う状況である桐生市において、特定教育・保育施設における待機児童数を目標指標にする必要があるのか。他の項目を作った方がよいのではないのか。

子育て支援課長	桐生市においては、待機児童数0人が続いているが、前期基本計画からの継続ということもあり目標指標に設定している。
事務局 (共創企画部長)	子育て支援策において、待機児童がいないということは、非常に重要なことだと考えている。また、首都圏から移住してくる際の一つの目安になり、これは桐生市の強みである。この状況を守っていくための意思表示として、「0」ではあるが、項目とする必要があると考えている。
会長	「0」という数字ではなく、例えば、新規受け入れ可能数はどうか。
事務局 (共創企画部長)	新規受け入れ可能数については難しい制度である。各園では、利用定員より少ない園児しか通っていない場合、国からの運営補助単価の関係で利用定員を下げる。このため、受け入れ可能数を目標値にすることは難しいと考える。よって、一番分かりやすい待機児童がいないことを目標指標に設定している。
委員	そのような理由であるならば、「幼稚園・保育園・認定こども園」を削除する必要はないのではないかと。
子育て支援課長	削除したわけではなく、「幼稚園・保育園・認定こども園」のことを「特定教育・保育施設」として変更した。
委員	待機児童数の「0」が並んでいることが気になる。何かの施策をして「0」が続いているわけではなく、何もしくも子どもが減っていて「0」である。「0」ということを外にアピールするために必要であることは同意するが、目標指標に努力しなくても達成できることを入れているということは、やらなくてもいいのではとまらないか。そのため、項目一つではなく、他の項目はないか。 例えば、家庭との両立であれば、働いている母親の人数・比率や、男性の育休人数など、そのような目標指標を設定した方がよいのではないかと。
事務局 (共創企画部長)	まず、施設の廃園などによって、待機児童が発生しそうになることはある。全体の調整の中で「0」を維持している。子どもが減っているから「0」になっているということではないことは理解いただきたい。新しい目標指標を追加することについては検討させていただきたい。
委員	27 ページの「3.子育て環境の充実」の耐震化率の目標指標については、耐震化率よりも不適切園数とかにした方がいいかと思う。新しく建設した施設は、適合しているはずなので、現在運営している不適切施設数にしていだければ、改修するか、解体すればいいので、いずれ「0」になっていき目標が見えやすいため、そうしていただいた方がよいのではないかと。

	<p>また、現況と課題に新しく虐待やヤングケアラーの記述があるので、耐震化は施設の話であって、子育て支援よりは防災対策だと思う。例えば、虐待やヤングケアラーの相談件数が減る指標や、その施策を実施することによって、目標が減っていくような指標も設定できると思うので検討いただきたい。</p>
子育て支援課長	<p>特定教育・保育施設の耐震化率については、検討させていただきたい。また、虐待やヤングケアラーの関係については、相談件数が減るからいいというわけではないが、検討させていただきたい。</p>
委員	<p>34 ページの「1.地域福祉活動の推進」の桐生市ボランティアセンターへの相談件数について、基準値に比べて、目標値が倍以上に設定されている根拠を教えてください。</p>
福祉課長	<p>桐生市地域福祉計画との整合性があり、地域福祉計画を策定した際の基準値が、2021 年度のボランティア件数であり、215 件であった。このため、最大値に近いということで、2024 年度以降の目標を立てた。令和元年度の台風 19 号の被害が近隣であり、特にこの年について、ボランティアセンターへの相談件数が多く、それを維持できるように対応したい。</p>
委員	<p>この指標の基準値になっている 2022 年度について、たまたま件数が低かったといことか。</p>
福祉課長	<p>そのとおりである。</p>

### 【第3章 教育・文化の向上】

- ・事務局が第3章（3-1～3-6）を説明し、第3章をまとめてご意見等を伺う。

委員	<p>42 ページの現況と課題において、商業高校に関する部分について、修正が全く行われていないが、この 4 年間で市内の小中学校の適正規模・適正配置基本方針を検討する会議において、商業高校を今のまま残すのではなく、中高一貫の学校にした方がいいのではないかと指摘があった。現状の記述であると、位置づけを変えろということを考えていないとなってしまう気がする。この 4 年間で検討したことを踏まえた記述にしてもらうよう検討していただきたい。</p> <p>また、43 ページの「1.教育内容の充実」の目標指標について、適正配置の会議の中で委員が発言していたことだが、不登校の児童・生徒数が減っていくことは目標にならないのか。特色のある教育と記載されているが、普通の教育と普通に学校で学べていない子どもがいないといったことが大前提となっていて、不登校児童・生徒数が減るという実数を目標指標に設定したらどうか。</p> <p>また、「2.教育環境の充実」の目標指標について、適正配置の会議を開催し</p>
----	---

	<p>ているため、小さい学校は適正規模への検討を開始していると思うので、適正配置に関する目標指標を設定することはできないのか。</p> <p>48 ページの街頭補導の参加者数が目標指標に入っているが、大事なことは補導される子どもが減ることなので、補導される児童・生徒数を目標指標に設定した方がよいのではないか。</p> <p>49 ページ以降で、各種施設の利用者数が目標指標に設定されているが、2022年度の基準値は新型コロナの影響を受けているため、底をうっている人数等であると思われる。そのことを鑑みて、目標値を設定しなければいけないと思うが、微増は目標値として甘くないかと思う。例えば、52 ページの文化財の保護・活用では、各施設の入館者数を目標指標に設定しているが、目標値が基準値から微増になっているが、あらためて目標値を確認していただいて、低い目標になっていないのかを確認してもらいたい。</p>
学校教育課長	<p>まず、42 ページの商業高校の現況と課題については、指摘いただいた中間一貫校の検討状況について、文言を入れることができるかどうかについて検討させていただきたい。</p> <p>次に、43 ページの不登校の児童・生徒数に関する目標指標については、デリケートな部分もあるが、検討させていただきたい。</p> <p>最後に、適正配置の校数に関する目標指標についても、検討させていただきたい。</p>
青少年課長	<p>48 ページの街頭補導の参加者数について、補導件数を目標指標にとの提案があったが、現在、補導件数はほとんど「0」である。現状、補導員が221名いて、たくさん街頭に出ていくことで抑止力になると考えており、この指標に設定している。</p>
文化財保護課長	<p>52 ページの桐生明治館の入館者数は、2022年度3,732人であった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の3年間、平成28、29、30年度の平均の入館者数は3,680人であり、その平均人数に基づき、目標値を設定している。</p>
委員	<p>53 ページの目標指標について、「スポーツ教室に参加したいと思う」と設定されているが、「参加したいと思う」のはみんなそうであると考え。そのため、「思う」ではなく「参加した」とかに変更した方がよいのではないか。</p>
スポーツ・文化振興課長	<p>現在、このアンケートの形で進めてしまっているため、次回の総合計画策定時に向けて検討させていただきたい。</p>
委員	<p>53 ページの現況と課題に老朽化が進んでいる施設とあるが、具体的にはどこの施設か。</p>

スポーツ・文化振興課長	運動公園内の施設については、かなり老朽化が進んでいる。現状では、一番老朽化が進んでいるのは昭和48年に建築された市民プールである。その他、周辺の弓道場や相撲道場も老朽化が進んでいる。
委員	54 ページの「2.スポーツ施設の充実」の目標指標であるアンケートについて、特定の施設を対象にして抽出しないと満足と回答する人の割合は高くなってしまいますので、範囲を設定したり、個別の施設にしたり検討していただければと思う。
委員	52 ページの文化施設の利用者数については、施設ごとに目標指標が設定されている。54 ページのスポーツ施設は、一つにまとまっているので、体育館や競技場など施設ごとに目標指標を設定していただきたい。
スポーツ・文化振興課長	施設によって競技が異なり、利用者数にばらつきが出ると考えられる。体育館であれば様々な競技が利用するが、野球場なら野球だけであり、1種目だけをもってスポーツ活動の指標にすることは、あまりふさわしくないかと考え、施設全体の利用回数を目標指標に設定している。
会長	施設ごとの利用回数を出すことは可能か。
スポーツ・文化振興課長	施設ごとの利用回数を出すことは可能である。しかし、施設を選定することで、種目が限られてしまう。また、全てのスポーツ施設を羅列するとかなりの数になってしまう。それを踏まえ、施設全体の指標として設定しているものである。
会長	文化施設は施設ごと、スポーツ施設は施設全体の数字となっており少し違和感がある。これについては検討していただきたい。
スポーツ・文化振興課長	検討させていただきたい。

## 8 その他

- ・事務局より、次回の開催日程（8月21日（月））及び委員報酬の支払日（8月10日（木））について事務連絡。

## 9 閉会 [ 終了：午後9時05分 ]

以上